

小噺・落語入門サロン

■ 前座 (今日の話題・話のネタ)



和風月名

落語歳時記シリーズ

長月(9月)の落語 「手紙無筆」

「私の所に手紙が来たのですが、読めないの、兄貴に読んでもらおうと思って来ました」
「この手紙か。読んでおいてやるから、4〜5日経ったらおいで」「いま読んでくださいよ」
「お前には言わなかったが、俺は鳥目なんだ」「鳥目は夜目が見えないんでしょ。今は昼間ですよ」
「そうそう、俺のはミミズクの鳥目」「アッ、兄貴は読めないのでしょう」「貸してみろ、読んでやるよ。これは手紙じゃないか」「どこから来た手紙だ」「そこに書いてあるでしょ」「聞いた方が早い」
「本所の伯父さん所かららしい」「書いてある。本所の伯父さんから八公へ」「おかしいな。いつもは八五郎様とか八五郎殿と書いてある」「偉い人にはみんな公が付いている。徳川家康公、織田信長公、豊臣秀吉公、渋谷の忠犬ハチ公だって付いている。」「中はどうなっています?」「チョット待ちなさい(封筒から手紙を取り出して)、あら、字ばかりで絵がない。見ると伯父さんは長いことないな。薄墨を使うようじゃ長いことないな」「兄貴、手紙が裏返し、ではないんですか。」「使いの者が待っているんで早くお願いします」「『半纏を着て風呂敷を持っている』、なにかの手がかりになるな。お前、なにか頼まれていないか」「そう言えば、子供を連れて上野動物園に行った帰り、広小路でバツタリ伯父さんに会いましてね、『お客を通すから、お店(たな)から本膳を借りてくれ』と言っていましたよ」「そうだろう、その様に書いてある」八公の言うとおりの口語体の文面になってしまう。
「そのあとはなんて書いてあります?」「もうそのくらいでいいだろう」
「そうはいきませんよ。全部読んでください」
「うーん、そのあとは、横町の金田一先生のところに行きなさい、と書いてある」
「じゃあ、そこで本膳を借りるのですね」
「いいえ、あの先生は学者だから、あそこで、この後を読んでもらいなさい」



■ 二つ目 (小咄の稽古)

映像や音声から学ぶ、小ばなしのコツ・つぼ

「プロに学ぶ小噺の話し方」落語の時間“ねずみ” ~名人、渾身の彫刻~

<https://www.youtube.com/watch?v=MYIWWvODick>

そのあと、皆さんの小ばなし披露とアドバイス

■ 大喜利

今回も 謎かけ で、お題は「新米」「団子」とかけて

次回は2025年 10月6日(月)「ハロウィン」「運動会」とかけて